



2018年7月20日

各 位

会社名 株式会社テグ・ウェスタン・セラピテクス研究所  
代表者名 代表取締役社長 日高 有一  
(コード番号:4576)  
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也  
TEL 052-218-8785

### 緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」の 国内後期第Ⅱ相臨床試験終了のお知らせ

当社が創製した緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」につき、ライセンスアウト先のかかもと製薬株式会社（以下、「かかもと製薬」）より、緑内障・高眼圧症を適応症とした国内後期第Ⅱ相臨床試験（以下、「本試験」）が終了し、良好な結果であった旨の連絡を受けましたのでお知らせいたします。

本試験では、緑内障・高眼圧症患者を対象に本剤を投与した際の眼圧下降効果とその用量反応性及び安全性についてプラセボ<sup>(注1)</sup>を対照に評価が行われました。その結果、眼圧下降効果が示され、安全性についても良好な結果が得られました。

現在、本試験結果に基づき、かかもと製薬にて国内第Ⅲ相臨床試験開始に向けた準備が進められております。

なお、本件による2018年12月期業績予想の変更はありません。

#### WP-1303 (H-1129) について

プロテインキナーゼ阻害剤<sup>(注2)</sup>を中心とする当社化合物ライブラリー<sup>(注3)</sup>のリード化合物を基にして最適化された、緑内障・高眼圧症を適応症とする開発品です。本剤は、各種プロテインキナーゼ<sup>(注4)</sup>を阻害する他に、熱ショックタンパク質<sup>(注5)</sup>のHsp90に結合することが確認されており、その結果、線維柱帯-シュレム管を介して主流出路からの房水流出を促進し眼圧を下降させることが示唆されております。

日本における権利は、2013年3月にかかもと製薬にライセンスアウトし、その後、2017年8月より国内後期第Ⅱ相臨床試験が開始されております。

以 上

## 用語解説

### (注1) プラセボ

偽薬とも呼ばれており、有効成分が含まれていない薬のことを言います。

### (注2) 阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

### (注3) 化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有しており、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。

### (注4) プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー化合物)等、生体においてエネルギーの元となる低分子物質等のリン酸基を、タンパク質分子に転移する(リン酸化)酵素です。一般にリン酸化を触媒する酵素をキナーゼと呼び、特にタンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと言います。

### (注5) 熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇することで細胞を保護するタンパク質の一群であり、「Hsp90」などのように、それぞれの分子がその分子量に基づいて名づけられています。